九州建設情報社

福岡第一高校で学校キャラバン（出前授業）を開催【九州地整と九州建専連】
建設現場を体験、未来の自分を考えるきっかけに

協力団体の代表者と真剣に向き合う生徒たち

建設分野の技術者の高齢化や人材不足に対応するため、建設業界と行政が連携し、建設業の重要性や魅力を伝えるための「学校キャラバン（出前授業）」が、５日に福岡市南区の福岡第一高等学校建設デザイン科の２年生約４０名を対象に実施した。この取り組みは、九州地方整備局と建設産業専門団体九州地区連合会が平成２９年度よりスタートさせたもので、各地の学校を訪問し、ものづくりの楽しさや建設業の社会的意義について、生徒・保護者・教員に直接伝えるもの。

冒頭、九州建専連の宮村博良会長（㈱宮村鉄筋工業）は「建設の仕事は地域を支え、自分たちの手で未来を作ることができます。この体験を通して、一緒に働く仲間が生まれるのを願います」とあいさつ。また、九州地方整備局の角英幸建設産業調整官は、「私たちの生活は専門技術を持った職人さんたちの手で支えられています。それらの技術は過去から

少しずつ作業工程を学ぶ

丁寧に指導してもらい、成長する生徒たち

引き継がれてきたもの。今日の体験を通じて、何かを学び取り、建設の仕事に興味をもってもらいたい」と伝えた。

この後、実習室内作業場へ移動し、生徒は４つのグループに分かれて「路面標示」「足場設置」「鉄筋結束」「型枠組立」の作業を交代しながら体験した。路面標示では（一社）全国道路標識・標示業九州協会が、手押しライナーを使って矢印や白線を描く作業。足場設置では福岡県鳶土工業連合会が、単管パイプとクランプの取り付け、撤去。鉄筋結束では福岡県鉄筋事業協同組合が建物の骨組みをつなぐ、結束体験を特殊な器具を使い組立体験。型枠組立では、福岡県型枠組合連合会福友会が、コンクリートを流し込むための型枠作りに挑戦。

ものづくりの楽しさと難しさを体験

慣れない道具に戸惑いながら経験を積む

路面標示を体験した生徒からは「手押しライナーは簡単そうに見えたが、実際やってみるとまっすぐにラインが引けなかった」と話し、型枠組立を体験した生徒は「ともかく釘打ちが難しかった。思ったように打てないし、釘に当たっても横に曲がってしまい、恥ずかしかった」と苦笑いしながら感想を述べた。４工種の体験が終わった後は、意見交換会が行われ「年間の休みはどのようになっているか」、「給料やボーナスについて」など、生徒や関係者から具体的な質問が出て、業務に対して強い関心を表していた。